

令和8年度宇都宮大学共同利用拠点公募型実習-食農フィールド実践演習

実施要項 (シラバス)

講座名称：「食農フィールド実践演習」

担当教員：長尾慶和、柏寄勝、池田裕樹、阿部朋行

対象学生：全国の大学生

応募要件：持続的な食と農に興味のある方、食や農に関する実体験に興味ある方

募集人員：30名程度 コース（下記参照）ごとに変ります

※応募者多数の場合は、受講志望理由等により選考いたします。

実施時期：2026年8月31日（月）～4日（金）

集合時刻：①コース ③コース

2026年8月31日11時（JR宇都宮駅東口）

②コース

2025年9月2日11時（JR宇都宮駅東口）

実施場所：宇都宮大学未来農学共創センター生物資源フィールド（真岡農場）

栃木県真岡市下籠谷443

TEL：0285-84-2424

FAX：0285-84-2425

内容・計画：宇都宮大学未来農学共創センター生物資源フィールド（真岡農場）は、栃木県真岡市の農村地帯に位置しています。総面積101haほどの敷地内には、水田、普通畑、野菜畑、果樹園、施設園芸用の温室、飼料畑、放牧地などが広がり、このうち約60haを耕作地として利用しています。また乳用牛と肉用牛が約30頭ずつ飼養されています。農場は全国トップレベルの総面積と分野の多様さ、充実した実習内容とスタッフ、首都圏から1時間半ほどで来られるアクセスなどが高く評価され、2010年度より全国の大学農場に先駆けて「教育関係共同利用拠点」に認定されました。それ以来、栄養分野、環境分野、教育分野あるいは医学分野など、首都圏を中心に

様々な大学・学部と連携して、農作物の栽培や収穫実習、乳牛の飼養管理や搾乳実習、収穫した生産物を活用した加工実習、実験室で行う生殖科学実験などを各大学の希望に応じて組み合わせ行ってきました。

これまでは、各所属大学の授業の一環として、学生を受け入れてきましたが、令和4年度からは、カリキュラム連携をしていない大学の学生にも、未来農学共創センター生物資源フィールド（真岡農場）で学ぶ門戸を開けることを目的に、宇都宮大学の授業の一環として、全国の大学生に参加を呼びかけて実施する「公募型実習」を開講します。実習は、3つのコースによって3日、または5日間実施します。果樹収穫、イチゴ栽培と研究施設の見学、農業機械の見学、果樹品質評価、ウシの飼養管理と搾乳、生殖科学実験などを行い、食料生産から流通までを学びます。

本年度の実施内容・日程は以下の通りです。

① 家畜と生命の専科コース（2泊3日、1単位相当）

1日目：(PM) 酪農概論、乳牛スキンシップ、給餌

2日目：(AM) 搾乳、乳牛放牧、ヒツジ毛刈り、(PM) 繁殖学実習、乳製品加工

3日目：(AM) 搾乳、和牛放牧、生殖科学実験

② 農作物と食の専科コース（2泊3日、1単位相当）

1日目：(PM) 園芸生産科学概論、果樹収穫・調整実習

2日目：(AM) 青果物のフードシステム学概論、宇都宮市中央卸売市場見学  
(PM) 世界の地産地消と食文化論、食と食文化実践体験

3日目：(AM) 農業機械システム学概論、農業機械操作実習  
(PM) イチゴの育種・栽培の理論と実践

③ 食農総合コース（4泊5日、2単位相当）①コース+②コース

※最終日の17:00頃 JR宇都宮駅東口にて解散予定です。

※天候により計画を一部変更することもあります。

※感染症拡大防止、台風、地震等のやむを得ない事情によって、実習中止もしくは日程変更になる可能性があります。

内容詳細：

【講義】酪農概論

【実習】乳牛スキンシップ・給餌・搾乳、繁殖学実習、乳製品加工実習

【担当】長尾慶和・阿部朋行

【内容】動物を人間との距離で分類すると、「家畜」は人間に最も距離の近い存在です。「家

畜」は人間のために生まれ、人間のために生き、人間のために死んでゆきます。そして我々人間は、家畜の生産する牛乳や卵、あるいは家畜そのものを様々な形で食べたり、生活必需品として活用しながら生きています。にもかかわらず我々は、家畜のことをほとんど何も知りません。本実習では、家畜の中でも特に牛にスポットを当て、まずは動物としての牛の一生について体験的に理解してもらいます。次いで、家畜としての牛の特別な機能・能力について学びます。そのうえで、牛たちが快適に暮らし、自らの持つ特別な能力を余すことなく発揮し、家畜としての寿命をまっとうさせることのできる飼養管理技術や繁殖システムなどについて、理解を深めます。最後に、乳製品加工実習により、生乳を起点とする豊かな食について体験的に学びます。

【講義】 生殖科学概論

【実習】 生殖科学実験

【担当】 長尾慶和・阿部朋行

【内容】 バイオテクノロジーは、今や私たち人間が社会生活を営む上でなくてはならない存在であり、英国におけるクローン羊"ドリー"の誕生をはじめ、畜産分野や医学分野への応用も盛んです。本実習では、家畜の世界で実用化され、ヒトの高度生殖補助医療技術としても活用されている様々な生殖科学技術について知識を深めます。その上で、ウシの卵子、精子あるいは受精卵(胚)を材料とした体外受精や顕微授精などの生殖科学実験を実施し、体験的に理解を深めます。

【講義】 園芸生産の科学

【実習】 果樹収穫・調製実習

【担当】 池田 裕樹

【内容】 野菜や果物などの園芸作物は、私たちの豊かで健康な生活には欠かせません。わが国では多種多様な園芸作物が全国各地で栽培されており、生産現場では緻密な栽培管理や収穫・調製作業が行われています。本実習では、講義や果樹園での栽培管理や収穫、調製等の作業を通じて、高品質な園芸作物がどのように生産されているのかを実践的に学びます。

【講義】 農業機械システム学概論

【実習】 農業機械操作実習

【担当】 柏寄 勝

【内容】 現在の農業(食料生産業)では生産量、生産効率および生産品質の観点から農業機械システムの利用が不可欠となり、データ集積型産業に生まれ変わりつつあります。本実習では、最新の農業機械や生産支援システム、さらに生産現場から得られるデータの利活用の実際を説明して食料生産の現在から将来を俯瞰し、実際の農業機械(トラクタ)を操作する実体験によって実践的に学びます。

【講義】 青果物のフードシステム学概論

【実習】 宇都宮市中央卸売市場の見学

【担当】 神代 英昭・池田 裕樹

【内容】現代の日本では、高品質な農産物・食品が年間を通じて消費者に供給されています。特に青果物は、南北に長くて標高差があるという日本の地形や、それによる気候の違いを活用し、旬の異なる様々な地域で栽培されているとともに、それを輸送する生産・供給の体制も確立しています。本実習では、青果物が流通する仕組みについて学ぶと共に、青果物流通の中核である中央卸売市場を見学します。

【講義】 世界の地産地消と食文化論

【実習】 食と食文化実践体験

【担当】 音羽 香菜・長尾 慶和・池田 裕樹

【内容】世界の地方産業は、農業を中心に成り立っています。地域の風土に根ざした農業を実践し、得られた農産物を活かした特産品と食生活、およびその継続と蓄積により培われた「ガストロノミー」が文化として定着しています。本実習では、世界各地で培われてきた食文化、およびその中で農業が果たしてきた役割について、宇都宮を拠点に活躍するフレンチのオトワレストランの専門家から学ぶと同時に、真岡農場の食材を活用したフレンチの試食を通じて、食文化の真髄を体感します。

【講義】 イチゴの育種と栽培

【実習】 栃木県いちご研究所の見学

【担当】 柏寄 勝

【内容】栃木県は50年以上に渡ってイチゴの生産量が日本一です。これまでに、とちおとめやスカイベリー、とちあいかななどの様々な品種が育種開発され、市場で高く評価され、食卓を賑わしてきました。本授業では、栃木県いちご研究所を訪問し、イチゴの育種・栽培の理論について学ぶと同時に、栃木県のイチゴ生産を支える中核施設を見学し、イチゴに関する理解を深めます。

単位認定と成績評価：単位認定を希望する場合には、必ず各自で自大学の教務担当者に必要な手続きについて確認してください。宇都宮大学では、各大学の規定に合わせて書類を準備します。その際の成績評価については、実習時の積極性とレポートの内容により行います。レポートについては、コースごとに全日程終了後にテーマを課しますので、決められた期日までにメールにて提出してください。

参加費用：①コース、②コース 10,000円

(実習費 5,000円、宿泊費 1,160円、食費他 3,840円)

③コース 18,500円

(実習費 10,000円、宿泊費 2,000円、食費他 6,500円)

※集合場所までの交通費は除く

応募方法：宇都宮大学教育共同利用拠点HPより申込書をダウンロードし、必要事項を記入の上メールに添付してお申し込みください。

[https://agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp/hpj/deptj/farm/uuf\\_kyoten/otoiawase.html](https://agri.mine.utsunomiya-u.ac.jp/hpj/deptj/farm/uuf_kyoten/otoiawase.html)

申込締切：7月10日（金）

受講許可：受講の可否について本人にメールで通知します。

問合せ先：〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 443

宇都宮大学社会共創・研究推進課フィールド係

TEL：0285-84-2424

Email：[fuznoujy@a.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:fuznoujy@a.utsunomiya-u.ac.jp)

受講にあたっての注意事項：

①風邪の症状、発熱、倦怠感など体調に異変を感じた場合は、無理せずキャンセルしてください。

※キャンセル連絡先：宇都宮大学社会共創・研究推進課フィールド係

TEL：0285-84-2424

Email：[fuznoujy@a.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:fuznoujy@a.utsunomiya-u.ac.jp)

②消毒液やマスクを用意いたしますので、適宜使用してください。

その他特記事項：

○持参物：作業着（汚れてもいい服）、帽子（熱中症対策）、手袋（軍手等）、筆記用具、マイナ保険証または資格確認書、必要な方は常備薬、日用品など（実習用の長靴は準備してあります。）

○食事：1日目の昼食は持参してください。その他の朝昼夜については仕出し弁当を用意します。※市場見学时（②コース）の昼食代は各自でお願いします。

○宿泊施設：原則として生物資源フィールド（真岡農場）内の学生宿泊施設を利用します。

○参加費の徴収：初日に現金で集金します。お釣りのないよう準備願います。

○場内禁煙：真岡農場の敷地内は全て禁煙です。